

盲ろう者が歌唱するために

1. はじめに

昨年のコラムを読む中で、盲ろう者と音楽についてのコラムがあり、幼少期から音楽に触れてきた身として盲ろう者がどのように音楽と関わるのか気になった。調べていく中で盲ろう者が楽器を演奏する事例はあっても歌唱する事例はあまり無いことが分かった。どうしたら盲ろう者が歌唱できるのか考えたい。

2. 盲ろうの分類と経緯

まず盲ろうの分類とその経緯について知る必要がある。

盲ろうの分類は以下の四つである。

- ① 「全盲ろう」…全く見えず、聞こえない
- ② 「盲難聴」…全く見えず、聞こえにくい
- ③ 「弱視ろう」…見えづらく、聞こえない
- ④ 「弱視難聴」…見えづらく、聞こえにくい

盲ろうの経緯として以下の4つが主である。

- ① 「先天盲ろう」…先天的、生まれつきの盲ろう者
- ② 「聾ベース」…聴覚障害者として生まれ育ち、後に視覚障害が発生した場合
- ③ 「盲ベース」…視覚障害者として生まれ育ち、後に聴覚障害が発生した場合
- ④ 「中途盲ろう」…後天的、成長していく過程で視覚聴覚に障害が発生した場合

3. 盲ろう者が歌唱するための支援と事例

盲ろう者の歌唱を支援する手段としてタクタイルエイドというものがある。音声ピッチ制御システムで、目標ピッチと使用者が発するピッチを振動で伝えるものだ。振動する部分が2列あり、その2列の振動する部分がそろった時に目標ピッチと一致したということになる。振動を感知することで正確な音程での歌唱が可能になる。

今回調べた限りでは、中途盲ろう者についての研究しか見られなかった。被験者である中途盲ろう者の二人は障害が発生する前に楽器演奏や歌唱の経験があり、被験者の一人は失聴の直後～1ヶ月までは歌唱が可能だったようである。研究は、被験者が健聴時に歌った経験のある曲2曲を、タクタイルエイドを用いながら歌唱するものである。結果は、音楽の訓練を受けていない成人健聴者、あるいは健聴幼児と同程度の歌唱レベルであった。

タクタイルエイドを用いることで、自分の発する音を目標の音に近づけて歌うことが可能であるようだ。

4. おわりに

今回調べた中で、中途失聴の盲ろう者が歌唱するときの支援についてはタクトイルエイドを用いて行うことができると分かった。自分自身、タクトイルエイドに触れたことはないため、実際にどのように作動するのか試してみたいと思った。またこれが最善策ではないはずであるから、もっと良い方法がないか探していきたい。

また、先天性盲ろう者が歌唱するための支援については目途が立っておらず分からなかった。しかし、聴覚障害者でも音楽が好きという人やカラオケに行くという人もいることを知った。このような人々がもっと音楽に親しむことができるような支援が出来たらよいと考える。その点についてはこれから深く、詳しく調べていきたいと考えた。

参考文献

・音楽情報処理による障害者支援 盲ろう者の触って歌うことを支援する一触覚フィードバックによる音声ピッチ制御一、坂尻正次、2015

[IPSJ-MGN570314 .pdf](#)

・触覚フィードバックを用いた音声ピッチ制御方式による盲ろう者の歌唱訓練、坂尻正次・三好茂樹・中邑賢龍・福島智・伊福部達、2010

[22_138 .pdf](#)